科目名	日本史 A		履修学年	第 2 学年	
			履修形態	選択	
			履修単位	2 単位	
使用教科書 (出版社)	高校日本史 A (実教出版)				
使用教材 (出版社)	日本史のアーカイブ (東京法令出版)				
学習の目標					
<p>近現代史を中心とする日本の歴史を、世界史的視野に立って日本を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。</p>					
教科担当者から					
<p>日本史 A では、近現代(明治時代～現代)の歴史を中心に学習します。近現代といっても、東京や関東を中心とした学習ばかりではなく、皆さんの生活する北海道(蝦夷地)についても、本州・四国・九州に加え、カラフトや千島列島、大陸などどのように交流を行い、先人たちが活動していたのかを学んでいきたいと考えています。また、第二次世界大戦を中心とした戦争の経過や歴史についても、様々な視点から思考を深めていきます。自分の祖父母や曾祖父母が、自分たちと同年代の頃にどのような暮らしを送っていたのか、思いを巡らせながら授業に臨んでほしいと考えています。</p>					
評価の観点・方法・割合					
観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解	
規準	近現代史を中心とする日本の歴史に関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする日本の歴史から課題を見出し、世界史的視野に立って日本を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ、公正に判断する。	近現代史を中心とする日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究するとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	近現代史を中心とする日本の歴史についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち日本を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身につけている。	
方法	※ ◎は観点の中でより重視するところです。				
観察	◎				
ノート	◎	○			
課題	○	○	◎	○	
小テスト		◎		○	
考査		○	○	◎	
割合	10%	20%	20%	50%	
評価の基準 ※ 満点を100点としたとき					
5	4	3	2	1	
100点～85点程度	84点～65点程度	64点～45点程度	44点～30点程度	30点未満	

学習内容								
学期	月	単元名／学習内容	学習のねらい	評価の観点				時間
				関	思	資	知	
前期	4	第1編 ○東アジアとの交流	幕藩体制以前の東アジア諸国の情勢について、互いの意見を交換し合いながら理解を深める。			○		8
	5	第2編 第1章 近代への転換	異国船の接近から明治維新までの過程を学びながら、幕府を揺るがすできごと及び民衆の気運を変えたできごとについて理解する。			○		8
	6～7	第2章 大日本帝国の形成 (含：前期中間考査)	開国後の日本が、どのように列強の政治や文化を反映させて民主政治を成立させたのか、民権運動と憲法制定に主眼を置いて理解する。			○		9
	7～8	第3章 大日本帝国の展開	憲法制定後の日本はどのように国家規模の拡大を図ったのか、東アジアでの戦略と列強諸国との外交の差に着目しながら、日本の狙いを把握する。			○		10
	9	第4章 両大戦間の世界と日本 (含：前期期末考査)	第1次大戦が日本にもたらしたものは何だったのか、大正時代の国内情勢の変遷とともに理解する。			○		9
後期	10～11	第5章 15年戦争と日本・アジア (含：後期中間考査)	満州事変から第2次大戦に至るまでの過程を学び、日本の国際的な立場がどう変わっていったのか理解する。また、戦争が我が国にもたらしたものは何だったのか意見交換する。			○		12
	12～2	第6章 戦後改革と高度経済成長 (含：後期期末考査)	戦後の日本の国際的な立場及び欧米諸国との関わり方はどう変化していったのか理解する。また、戦前と戦後における民衆の生活の変貌についても探る。			○		9
	2～3	第7章 現代の世界と日本	高度経済成長以後の日本経済の変遷について理解する。また、今後の日本がどこへ向かっていくのか、未来を担う当事者として主体的に考察する。			○		5
							70	